

## 県産材製材品の表面線量調査の結果について

### 1 目的

県内の製材工場において、製材品の表面放射線量を定期的に測定し、現在出荷されている県産材の安全を確認する。

### 2 調査時期 平成27年9月1日～平成27年10月8日

### 3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している142事業者について調査した。

### 4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位cpm）を測定した。

#### 【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	16	32	20	27	9	12	26	142
検体数(本)	79	208	155	146	54	80	257	979

### 5 調査結果

現在県産材が出荷されている142事業者における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は41cpm（0.001 $\mu$ Sv/h\*に相当）であった。

41cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学 原爆後障害医療研究所放射線リスク制御部門 放射線生物・防護学分野 松田尚樹教授及び 防衛大学校応用科学群 応用物理学科 高田真志教授に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量	(H22.2.16)	0.04	$\mu$ Sv/h
	東京都新宿区における空間線量	(H26.1.28)	0.035	$\mu$ SV/h

#### 【調査結果内訳】

区分	表面線量（cpm）				合計
	未検出	～20	～40	40以上	
事業者数	42	93	6	1	142
検体数（本）	623	346	9	1	979

最大値：41cpm
最小値：0cpm
平均値：3cpm

## 6 現在までの調査結果について

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23.11.10 ～12.7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24.1.25 ～3.8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場で実施した。
第3回	H24.6.4 ～7.24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第4回	H24.9.3 ～11.6	156	1,224	51	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第5回	H24.11.22 ～H25.2.4	135	1,177	31	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第6回	H25.3.1～ H25.5.31	121	1,076	35	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第7回	H25.5.27～ H25.7.19	153	1,301	24	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第8回	H25.8.28～ H25.10.30	134	1,124	25	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第9回	H25.11.26 ～H26.1.24	132	1,097	28	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第10回	H26.2.20～ H26.3.26	133	1,078	24	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第11回	H26.5.26～ H26.6.30	144	1,071	28	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第12回	H26.8.28～ H26.10.2	146	1,035	22	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第13回	H26.11.17～ H26.12.22	134	906	28	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第14回	H27.2.10～ H27.3.24	133	955	21	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第15回	H27.6.2～ H27.7.2	147	1,054	41	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
今回調査	H27.9.1～ H27.10.8	142	979	41	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。

## 7 今後の対応

今回と同様の調査を定期的（3ヶ月に1回）に行い、製材品の安全を確認する。

<参考> cpm（測定値）から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値) (cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

独立行政法人：産業技術総合研究所作成